

だけど…



パソコン、詳しくないし、
使いこなせるかなあ？

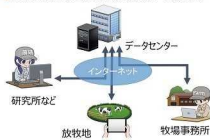
？

ご安心ください。
データの処理や管理は、データセンターで行うため、GISの専門知識は不要です。操作やデータ入力の方法については、専門研究員がサポートします。

さらに、インターネットに接続できる場所であれば放牧地からでも見ることが出来ます。また研究所等に情報を送示しながら質問することも可能です。



●草地管理支援システム(クラウド)を利用したデータ共有のイメージ



GRACK!



ただいま農研機構では、「草地管理支援システム」を
2年間無償でご利用いただけるモニターを募集中です

▶ モニター募集の詳細はこちらまで

<http://www.naro.affrc.go.jp/>

検索欄で検索!

▶ システムの機能紹介動画はこちらから

YouTube NAROチャンネル
草地管理支援システムで検索!

●お問い合わせ先

農研機構
国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構

畜産研究部門 企画連携室 広報プランナー
[TEL] 029-838-8292 [FAX] 029-838-8606
[E-mail] koho-nilgs@naro.affrc.go.jp

草地管理支援システムは、革新的技術開発事業(うち産学の契機を結実した革新的な技術体系的確立において、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構と株式会社パソコが共同開発したシステムです。

放牧草地の“見える化” で効率的な作業をサポート!

草地管理支援システム

モニター募集のご案内



“草地管理支援システム”は、作業場所を絞り込み、投入資材や作業時間を削減することで、**効率的な放牧草地の管理を実現**します!

農研機構
国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構

放牧草地の中には、牧草に適さない環境があります

- ☑ 施肥をしても牧草が増えない場所
- ☑ 更新しても、すぐに牧草が衰退してしまう場所 など
(例：ふんの集積場所、湿地など…)



そこで、管理の効果が明らかな“重点管理エリア”を絞り込むことで、作業時間や投入資材の削減が可能となります！



そうは言われても、牧区のみをさらに区分けして作業するなんてイメージがないな。

そんな、管理者のお悩みを解決するのが、“草地管理支援システム”です。



草地管理支援システムの特長

“重点管理エリア”を地図上で“見える化”します



草地管理支援システムは、地形と入力情報(排せつふん集中エリアなど)から自動的に「重点管理エリア」を抽出し、地図上に表示します。面積も分かるので、肥料の量も簡単に算出できます。

草地管理支援システムで抽出された重点エリアを参考にすることで、施肥量を2割削減した牧場もあります。

なるほど！

これなら、どこに施肥をすればいいのかわ、イメージがつかみやすいね。



だけど、ちゃんと作業できているのかわからない。
CHECK!

トラクタの軌跡表示機能で作業範囲を“見える化”します



だいたい思った通りにできてるな！

トラクタ作業時に携帯型GPS端末で取得したデータを、草地管理支援システムに転送すると、おおよかなルートや作業範囲が表示されるので、作業の確認ができます。



他にも草地管理を支援する様々な機能を揃えています

電子地図機能

牧場やグート、水飲み場といった施設だけでなく、ガレ地や崖地なども記録できます。また、対象物を探索する際には、地図上に自分の位置が表示されるので、見つけやすくなります。

※左の画像も、右が自分の位置です(イメージ)

GPSで自分の位置を確認しながら、対象物を探索。



簡易測量機能

パソコンの画面(システム)上で、距離や面積を測ることができます。傾斜にも対応しており、より現場に近い値を得ることができるので、牧場資材の必要量などの算出に役立ちます。さらに、牧区の詳細や小区域化のシミュレーションも出来ます。

場所に対応した植生情報と写真の記録

草地の変化を把握するには、植生情報の記録が有効です。しかし同じ場所で調査をすることは難しいし、せっかく撮った写真も場所がわからない…。草地管理支援システムでは、10mメッシュごとに植生情報や写真を管理するので、その場所の情報を確認することや、情報のある場所を見つけることが簡単に出来ます。